



安積二小だより

創立 150 周年 「花と緑と思いやり ひとみ輝く 二小の子」

郡山市立安積第二小学校
学校 便り No.13
令和 7 年 7 月 1 日
文責：校長 齋藤 和彦

校地内交通安全の日 「交通事故ゼロ」の徹底を！

7 月 5 日は、『校地内交通安全の日』です

2012 年 7 月 5 日から、今年で 13 年になります。当時 2 年生だったあの子が生きていれば 20 歳になっているはずでした。

2012 年 7 月 5 日朝に、郡山市内小学校の校地内で交通死亡事故が起きました。

この死亡事故は、登校して正門付近にいた 2 年生の男子が、忘れ物を届けに来た保護者の車にひかれて亡くなったという事故です。

被害者が児童、加害者が同じ学校の保護者という、とても悲惨な事故でした。

それ以来、郡山市では 7 月 5 日を『校地内交通安全の日』として、このような悲惨な事故を繰り返さないように語り継いできました。

また、『歩車分離』といって、歩行者（子）と車と一緒にならないように動線を分けて、安全確保を強化してきました。

本校でも、交通事故ゼロを期して、（これまでは..）（うちだけじゃない）（あの家庭もやってる）（今日だけは..）を徹底の域まで改善し、朝夕登下校時の安全安心を確かに担保できる“安積二小マナー”が求められます。

- ◎ 校舎前のロータリーへの送迎車の乗り入れの際は、十分な減速を徹底します。
- ◎ お子さんの乗り降りの際は、ロータリー内の車道を歩かせることはしません。（特に、小さな弟妹は必ず保護者と手をつないでください）
- ◎ 休日やスポ少送迎でのロータリー駐停車は厳禁とします。（駐車は北側駐車場）

※ 校地内ロータリーに送迎車両が乗り入れる学校は、市内では本校のみです。便利なスペース、都合のよいシステムのように、車両が校地内に入れば、当然、事故のリスクが生じます。できる限り、

『徒歩の集団登校』

『友だちとの徒歩下校』

を奨励します。



～特別な場合を除きます

けが/早退時の迎え、特別な配慮を要する理由（支援学級の登下校等）による場合を除きます。



※ 相田みつを（文化出版局）に引用許可了承を得ています

『負ける練習』（相田みつを）から、 『車登校』⇔『負ける練習』を考える

柔道の基本は、受け身。受け身とは、投げ飛ばされる練習。人の前で叩きつけられる練習。

人の前で転ぶ練習。人の前で負ける練習です。

つまり、人の前で失敗をしたり、恥をさらけ出す練習です。自分の格好悪さを多くの人の前で無様にさらけ出す練習。それが受け身。

長い人生には、格好良く勝つことよりも、無様に負けたり、だらしく恥をさらけ出すことのほうがはるかに多いのです。

そして、負け方や受け身の本当に身に付いた人間が、人の悲しみや苦しみに耐えて、人の胸の痛みを心の底から理解できる優しくあたたかい人間になれるのです。

それでは、「負ける練習」とは具体的にはどうするのか？例えば、寝坊した子供が学校を遅刻しそうになると、親は車に乗せて校門のそばまで送っていきますよね。我が子に「遅刻して恥ずかしい思いをさせたくない」という親心なのですが、それは目先の・その場かぎりのプラスであって、長い将来のためにはマイナスなのです。そういう時には親は、車などで送らないで遅刻させるのです。そして、遅刻して教室に入っていくという恥ずかしい体験を子ども自身にさせることです。先生に問いただされるかもしれません。友達に笑われるかもしれません。

しかしそれは、寝坊して遅刻した子供自身の責任として、子供自身に体で受け止めさせることです。そして、遅刻するとこんなに恥をかくということを子供自身に体験させることが大事です。子供の忘れ物を親がせせと学校に届けている場合もよくありますが同じです。日常生活の中で、そういうあたりまえの体験を子供にさせないで、恥ずかしいこと、骨の折れることは、みんな親が代行してしまうから、子供自身に苦しさに耐える心の根ができません。

「車に乗せていけば遅刻しない。忘れ物を届けてやれば恥をかかないですむ」そこを『じっと我慢の親』になって、あえて子供に恥の体験をさせる。それが、『負ける練習』です。

負ける練習・失敗の練習・恥をさらす練習をたっぷりさせておくことです。

そうして、負けに強い人間・失敗に強い人間・恥をさらすことを恐れない人間に育ててやるのが、子供の一生を通しては、『しあわせ』なのではないでしょうか。（前後～略～）

※【負ける練習】～校長の私も同感です。